

くまもと技術革新・融合研究会が創る時代へ!

東海大学 学長補佐(情報統括担当)
RIST前副会長
中嶋 卓雄



くまもと技術革新・融合研究会(RIST)の30周年にあたり、常に時代の先端となる研究・実践活動を担ってこられ、新しい時代への先導者としての役割を果たされていることに敬意を表すると共に、今後のご活躍を期待しております。

RISTは、熊本大学から九州東海大学、更に現在の東海大学と移動してきた私の教員人生と、研究テーマもほぼ同期しており、その時代や将来を見据えた活動を続けてきたと思います。RISTの開設当初開催された人工知能分野で著名なファイゲンバウム氏の公演は今でも記憶に残り、当時、コンピュータの高度化に基づき人工知能の研究の第一人者が語られた内容は、時代の最先端であったかと思います。当時、一階述語論理の処理系を作っていた私にも刺激的な講演会でした。ここ数年AI(Artificial Intelligence)という言葉が日常的に使われていますが、30年前から確立された知見に触れることができたことは有意義だったかと思います。その後のインターネットの創設期においては、「ネットワーク検討会」の場で、ネットワークプロトコル、経路制御、更にはWebなど、様々な技術の学習会を開催してきました。インターネット技術が商用化され、セキュリティに注目が集まりつつあった2000年以降は、RISTにおいて連続的なセミナーを開催し、全国からその先端分野の研究者、技術者を招聘し、セキュリティプロトコルからマルチメディアセキュリティにも及ぶ幅広い活動がで

きたと思います。ここ数年では、農商工連携分野の推進もあり、副会長をさせて頂きましたが、熊本地震により、その活動も一旦中断せざるを得ない状況になったのかと思います。

現在、日本が提唱しているSociety 5.0に向けた技術革新があらゆる分野で展開しており、インターネットで接続されたSociety 4.0の次の世代は、データサイエンスやAIを始めとした情報技術の活用により、多様な展開になると思います。経済の評価においても、生産活動に注目したGDPだけでは、生産以外の活動の評価には十分ではなく、新たな指標が求められています。一方で、持続性社会の実現に向けたSDGs(Sustainable Development Goals)は、新たな目標として議論が始まり、THE(Times Higher Education)などの大学ランキングなどにおいても、新しい分野分類の指標として用いられ始めています。そのような持続性が検証対象となる現代は、従来の科学技術の発展に伴って発展してきた文明も、Anthropocene(アントロポセン:人新世)と呼ばれる新しい世紀に入ったと言われています。

このような時代の転換点の中で、従来の技術の融合により、新しい技術を創出する活動を活性化していただければと思います。また、より組織を強固にされ、熊本地域の発展、更には、日本、世界への発展に寄与できる活動を今後も展開されることを期待しております。